

## テッポウユリの summer sprouting に関する研究

(第2報) 覆土の厚さと summer sprouting の形成について

小林 正 芳

(鹿児島県農業試験場)

KOBAYASHI, M.

Studies on Summer Sprouting of *Lilium JongFlorum* Thunb.

## 2. On the Thickness of Soil Covering and Formation of Summer Sprouting.

テッポウユリの summer sprouting の形成については、第1報でその形成過程の一部を報告したが、沖永良部の産地は土壌が重粘であり、植付けのときの覆土の厚さによっては、かなり形成に影響を与えていることが収穫のとき認められている。本報告はこの覆土との関係について輸出球根生産標準栽培を行い調査した結果である。

## 1. 試験方法

鹿児島県大島郡和泊町(沖永良部島)で生産された種球を供試した。品種は‘ジョージア’を用い、規格は球周11cm, 球高3.5cm, 球重17grのものを用いた。沖永良部現地ほ場に10月10日に床幅120cmに5条植え、球間20cmで植付けた。試験区の構成は、球の高さの1倍から5倍の5覆土区を設けた。すなわち3.5cm, 7.0cm, 10.5cm, 14cm, 17.5cmの5区である。1区50球の4反覆で実施した。施肥は元肥を施さずに、全量追肥として12月25日に全量(CDU-S555を10a当たり120kg)を施した。収穫は翌年6月10日に掘上げ、球根を調査した。

## 2. 試験結果および考察

覆土の厚さと発芽・生育と球の肥大の関係は第1表に示すとおりで、覆土が厚いほど発芽が遅れている。覆土の厚さと生育との関係は5倍覆土区の草丈が初期生育が遅れているが収穫前には大差がなくなる。覆土の厚さと球の肥大との関係は、初期に球周、球重ともに範囲の深さであれば深植えほど肥大し球重も重くなる傾向がみられる。

覆土の厚さと異常球の形成、特に変型球、無心球と summer sprouting については第2表に示すとおりで、覆土の厚さと異常球の形成では深植えほど正常球率が高く、浅植えほど変型球と無心球(summers prouting の

発生、生育が遅れて新球形成が遅れて新球があっても極めて小さく、心のない球にみえる)が多い。summer sprouting の形成は深植ほど少なくなる。これは球根から地表に出るまでの球根の消費が多く、このため新生長点が球根として肥大するのではないかと思う。このように summer sprouting の形成と覆土の厚さとの関係は良質球根生産上大きな問題となる。また、育種の面からこの summer sprouting のでない系統の育成も球根生産で重要なこととなる。この点さらに検討していく。

第1表 発芽・生育と球の肥大

覆土の厚さ	発芽			草丈		球の肥大	
	始	期	そろい	2月10日	5月10日	球周	球重
	月日	月日	月日	cm	cm	cm	g
1倍	11. 8	11.13	11.18	11.3	35.9	18.2	72.3
2倍	11. 6	11.14	11.20	11.9	37.5	18.7	84.5
3倍	11. 7	11.16	11.21	11.9	37.0	19.3	93.0
4倍	11. 8	11.17	11.24	11.0	37.0	19.4	93.5
5倍	11.10	11.19	11.26	10.1	37.8	19.9	100.0

第2表 Summer Sprouting の形成と新球

覆土の厚さ	S・Sを形成		球の形状	S・S形成後の新球の状態	
	しないもの	したもの		新球大	無心球
	%	%		%	%
1倍	40	60	変形	40	20
2倍	40	60	正常	45	15
3倍	60	40	〃	40	0
4倍	65	35	〃	35	0
5倍	90	10	〃	10	0